

2017.05.15：次世代育成調査特別委員会 本文

○菅原正和委員　今ですね、いろいろいじめの問題がクローズアップされて、今回、自死事件が3件も出てしまった。これはすごく憂慮すべき事態だと思います。この委員会でも、これは大きな問題であると、そのように感じております。

私、ここを総括をするに当たって、ちょっといろんな資料をいろいろ調べましたら、いじめをする子というのはどういう性格の子なのかということが、まず一個あるかと思うんです。そういう性格性があり、それをやっぱり改善していかなきゃだめだというのが一つあるかと思えます。

実はちょっと調べましたら、いじめはなくなることはないと思います。なぜなら、人は誰でも、何だかんだいっても自分自身が一番大切です。だからこそ、自分の立場が危うくなれば人を攻撃します。誰かをいじめていけば、自分は少なくとも一番下ではないので安心感を得ることができます。自分がいじめている相手より上だという優越感を感じることができます。この安心感と優越感を両方一遍に得ることができるから、いじめは非常に楽しいものです。だから、やめられないのです、こういう言葉があります。

でも、私たちは動物でも人間ですから、人間というのは社会もあり、コミュニケーションもあるということで、攻撃本能をコントロールする共存能力というのが確かにあるかと思えます。やっぱりいじめをする子というのは、その共存能力に少し欠けているのかなど。やはりそういうところも探っていかなきゃだめだと。いじめはだめだ、だめだと言ったって、根本原因がどういうところから来てるかというのも探っていくということが、やっぱりこの委員会でも報告書の中にちょっと入れていくのも一個じゃないかと思っていました。

あとですね、ずっと委員会を聞いていまして、学校の役割とか、家庭の役割とか、社会の役割というのがいろいろ出てきたと思います。以前は、いろいろな立場ではっきりしてたというのが今混在していて、どこがどういうふうにかかわっていかかわからないという、そういう状態になっているかと思えます。ただ、学校としては、やはり社会に開けた学校にしないことには、そこに人は入ってこないということで、自分たちの立場ばかり守るんじゃなく、みんな共存共栄でやっていって、社会で子供を育てていくという社会をつくっていくということが、一番必要ではないかと、そのように思っております。

ただ、今いろんな先進事例とかいろいろ見てきましたけれども、非常に頑張っている人がいっぱいいるわけではなく、少数がうんと頑張っていると。あとは平準的だというのが一個問題なのかなど。そのレベルをどうやって上げていけばいいのかというのが、まず一個だと思います。本気になってかわらないと、子供はやっぱり本気かうそかといのはすぐ見きわめてしまうので、その辺をきちんと取り組んでいかないと、やっぱり次世代の子供は育成できないんじゃないかと、そのように思っております。